

第3章 道路交通事故の長期予測

第1節 道路交通事故に関する統計の推移

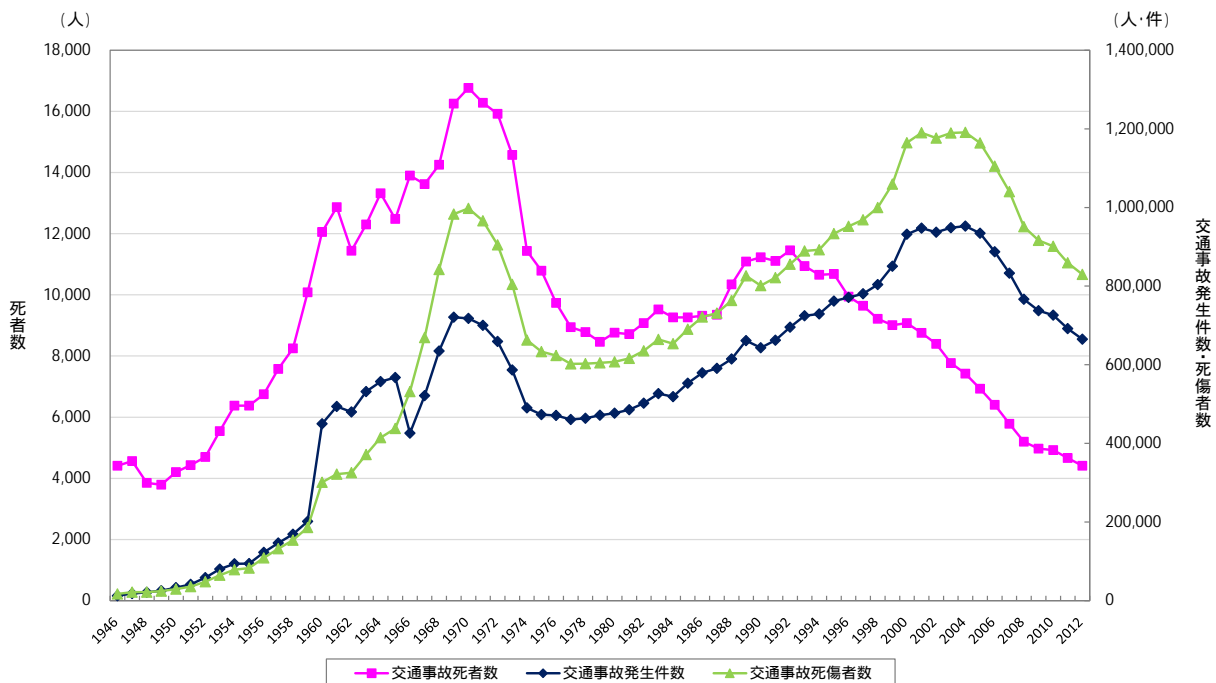
道路交通事故の長期予測を行うに際し、初めに日本における道路交通事故発生件数、死傷者数、交通関係指標あたりの死者数・交通事故発生件数等、道路交通に関する各種統計の長期的推移を把握する。

1. 道路交通事故件数・道路交通事故死者数・道路交通事故死傷者数の総数

交通事故発生件数、交通事故死者数・死傷者数の推移を見ると、いずれも1970年頃に第1のピークを迎え、1970年代後半まで低下を続けた後、上昇に転じた。その後、交通事故死者数については1993年以降、交通事故発生件数や交通事故死傷者数については2005年以降再び減少に転じている。

例えば交通事故死者数は、1970年には年間16,765人を数えていたが、1970年代後半にかけて減少し、その後上昇して1992年に11,451人を記録して以降、再び減少に転じ、2013年には4,373人まで減少している。

図表 3-1 道路交通事故発生件数・道路交通事故死者数・道路交通事故死傷者数の推移

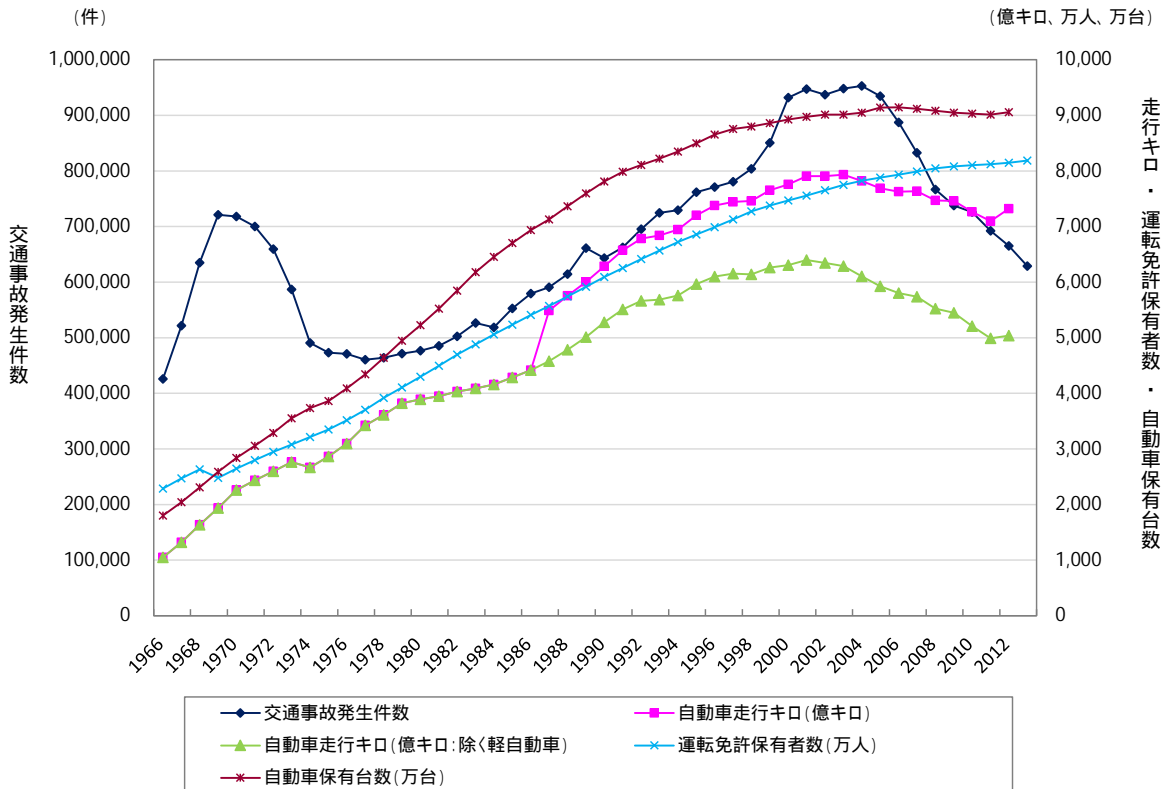


注) 1 1959年までは軽微な被害(8日未満の負傷、2万円以下の物的損害)事故は、含まれていない。
 2 1966年以降の件数には物損事故を含まない。
 3 1971年以前は、沖縄県を含まない。
 資料) 交通事故統計年報(ITARDA)による

2. 自動車走行キロ・運転免許保有者数・自動車保有台数の推移

交通事故発生件数、交通事故死者数・死傷者数が第1のピークを迎えた1970年頃から2004年頃まで、自動車走行キロ、運転免許保有者数、自動車保有台数の推移は、ほぼ単調増加を示していたが、いずれの指標も2004年から2008年にかけてピークアウトし、ほぼ横ばいから減少に転じた。その後、自動車走行キロについては、2012年に増加に転じている。

図表 3-2 自動車走行キロ・運転免許保有者数・自動車保有台数の推移



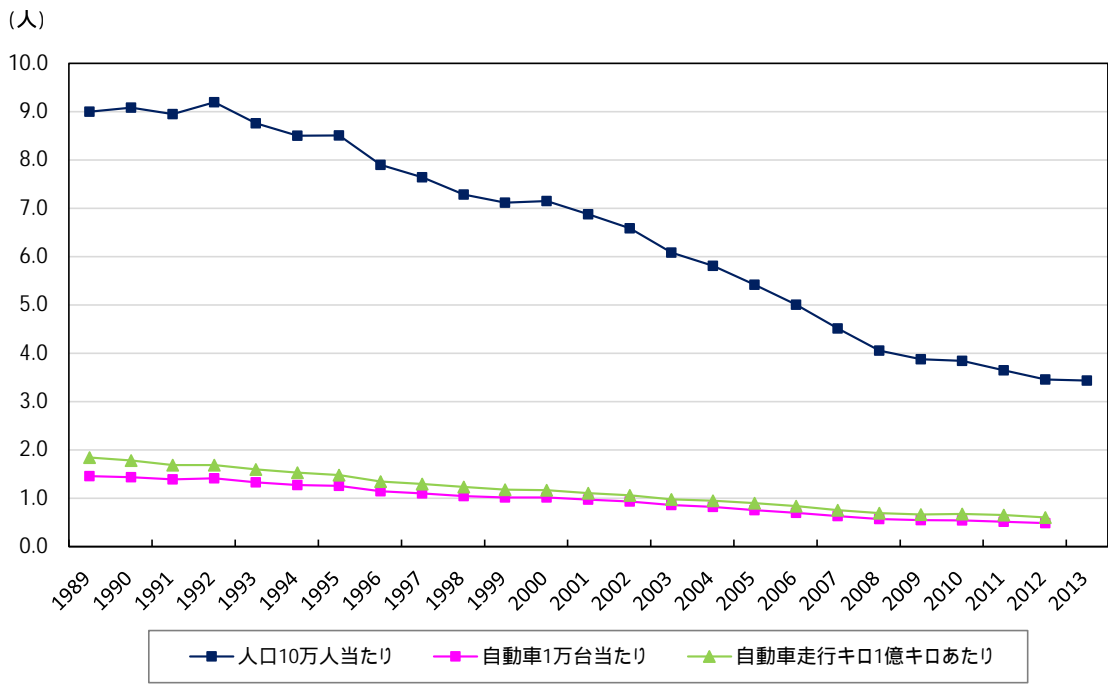
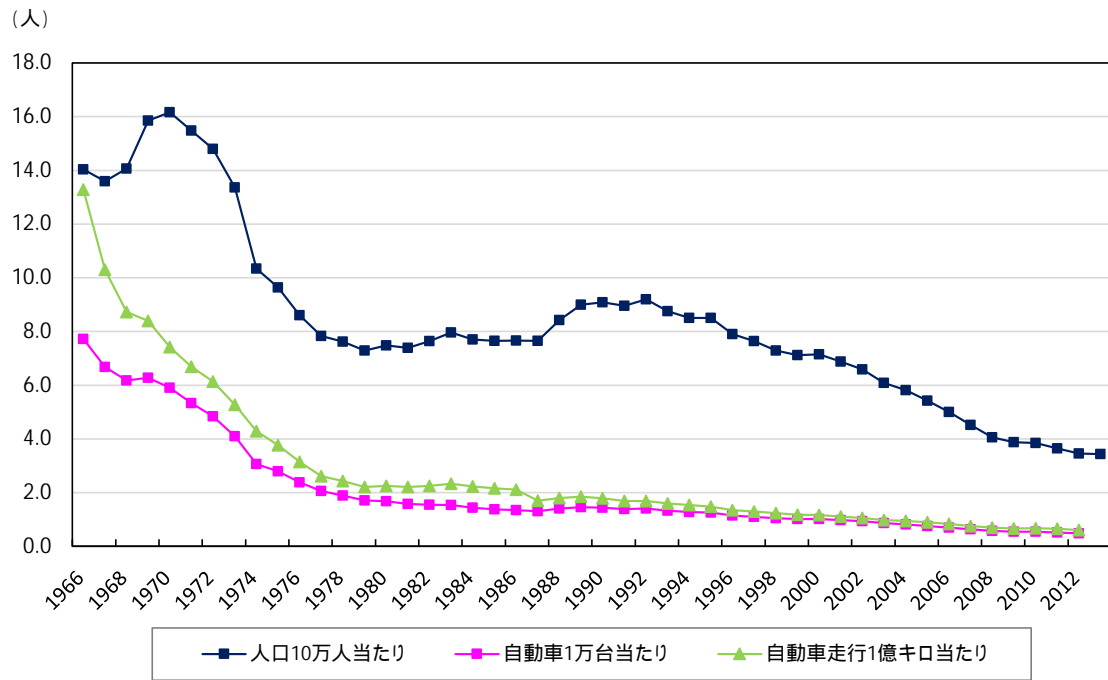
資料) 交通事故件数：交通統計 (ITARDA) による
 運転免許保有者数：運転免許統計 (警察庁) による
 自動車走行キロ、自動車保有台数：自動車輸送統計調査 (国土交通省) による

3. 単位あたり道路交通事故死者数・単位あたり交通事故件数

交通事故死者数を人口10万人あたりで見ると、1970年をピークに1970年代後半にかけて大きく減少し、その後1980年代後半までは横ばいであった。1980年代後半から1990年代前半にかけて一時的に横ばいから緩やかな上昇となった後は減少傾向が続いているが、2008年以降は減少率が小さくなっている。

自動車1万台あたり・自動車走行キロ1億キロあたりの交通事故死者数については1960年代後半から1980年頃にかけて大きく低下した後も、今日に至るまで漸減傾向が続いている。

図表 3-3 人口10万人・自動車1万台・自動車走行1億キロあたり交通事故死者数
 (上段：長期、下段：短期(平成以降))



資料) 人口：人口推計(総務省統計局)による
 交通事故死者数：交通統計(ITARDA)による
 自動車走行キロ、自動車保有台数：自動車輸送統計調査(国土交通省)による